



ALL for ALL.

ひとつひとつの、夢によりそう。

代表取締役社長 **吉村 俊哉**

平素より、私ども三井生命をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2018年4月1日付で代表取締役社長に就任しました吉村俊哉です。

安心を提供していく生命保険会社として、ご契約者の皆さまのご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

このたび、2017年度の業績をはじめとする当社の現状について取り纏めたディスクロージャー誌「三井生命の現状2018」を作成いたしました。本誌を通じて、当社へのご理解を一層深めていただければ幸いです。

当社を取り巻く環境

さて、2017年度の日本経済は、海外経済の成長により輸出が増加基調となり、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、設備投資・個人消費が増加傾向を続けるなど、緩やかに拡大しました。

生命保険業界におきましては、人口減少や少子高齢化の影響、情報技術の進化などによりお客さまのニーズが多様化してきており、特に老後の生活保障、介護保障、医療保障などへの関心が、これまで以上に高まってきております。そのため生命保険会社各社では、このようなニーズに応えていくために、新商品の開発やお客さま向けサービスの充実への取組みを一層強化するとともに、11年ぶりに行われた2018年4月の「標準生命表」の改定を機とした保険料率見直しに向けた動きが見られました。

昨年度の取組み

当社において2017年度は、2015年度からの中期経営計画の最終年度でありました。3カ年にわたるこの計画期間において、三つの柱として掲げた、①「営業職員によるサービス体制の拡充・強化」、②「強みとなる分野づくり」、③「業務の効率化と固定費削減によるコスト効率の改善」に取り組むとともに、日本生命保険相互会社（以下、日本生命）との経営統合によるグループシナジーの発揮にも取り組んでまいりました。

その結果、経営目標に掲げていた「保有契約の反転（定額保険の年換算保険料）」、「利益水準目標の確保」を実現することができました。

また、新たにご加入いただいたご契約のボリュームを示す新契約年換算保険料、生命保険会社の本業に係る期間収益の状況を示す基礎利益、健全性を示す指標であるソルベンシー・マージン比率や実質純資産額などの主要指標について、いずれも前年度末から増加という成果も収めることができました。



新たな『中期経営計画2020』 ～「成長」ステージへ～

迎えた2018年度より、新たに策定した『中期経営計画2020』（2018年度～2020年度）をスタートさせました。

計画の概要は別に記載のとおりですが、前中期経営計画における「保有契約の反転」達成を踏まえ、「再生」から「成長」ステージへの移行を大きなテーマとして策定しております。

具体的には、営業職員チャネルをコアとした「生命保険の販売分野の成長」と、銀行窓販・代理店および日本生命への商品供給を通じた「生命保険の元受分野の成長」を両輪として取り組み、加えて「元受機能の強化と効率化」や「ホールセール領域における強みづくり」に取り組むことで、会社成長を加速させてまいります。

また、これらの戦略を支えるべく、「お客さま本位の業務運営とコンプライアンスの徹底」そして「人材育成と活気のある職場づくり」を重要課題と位置付けて推進してまいります。

『中期経営計画2020』で目指す成長は、従業員ひとりひとりが、夢を持ち、個性を発揮しながら活躍することが不可欠と考えております。

そのためにも従業員の想いをひとつに、お客さまの夢のために全員が行動し、すべての従業員の夢のために全員が協力することに取り組んでまいります。

そのような想いを込めて、この計画のスローガンを「ALL for ALL. ひとつひとつの、夢によりそう。」とし、全社一丸となって計画を成し遂げてまいります。

お客さまによりそう 「BESTパートナー」として

初代社長、団琢磨が残した「いつの時代も、お客さまのためにあれ」という経営哲学は、創業以来90年以上の長きにわたり、現在でも脈々と、当社の全従業員に受け継がれ、当社のお客さまサービスの原動力となっております。

この言葉を常に忘れることなく、お客さまによりそう「BESTパートナー」としてあり続けるため、役職員一同、今後も誠心誠意努めてまいります。

引き続き、皆さまからの一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2018年7月

